

てらびっ と

海外研修 K Y O のあけぼの会

表題「てらびっ」とはインドネシア語（京都府友好国）で

「あけぼの」の意味です

京都府の「海」「森」「茶」をモチーフにしています

No. 31

2025 / 3

— はじめに —

ご挨拶



海外研修 KYO のあけぼの会
会長 田中 田鶴子

皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。
海外研修 KYO のあけぼの会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
2024 年の自主研修は、『SDGs と地方創生・持続可能な農業への取組』をテーマに、
岐阜・愛知方面を訪ねました。
研修では、丸重製紙企業組合様やトヨタネ研究農場様を訪れ、地元地域や地場
産業を持続可能なものにするため、様々な知恵と工夫で多様な取組をされていました。
また、子育て支援事業を展開している 認定 NPO 法人 まめっこの皆様と意見交換を
させていただき、京都府が『子育て環境日本一』に向けて取り組んでいる内容
などを発表し、双方にとって有意義な時間を過ごしました。
京都府は南北に長く、地域ならではの特性が多くあります。その特性やコミュニティ
を存分に活かしていくことが地方創生につながり、誰もが未来に夢や希望を持ち続

けられる社会になるのではないかと、研修を通じて強く感じた次第です。

今回の成果を、本紙に掲載しておりますので、ご一読ください。

当会は 1989 年以來、リーダーとしての資質向上や、女性関係団体のネットワーク作り、さらに国際交流の促進
をめざして活動が続けてまいりました。その間、社会環境も大きく変化し、今では組織や社会の発展には女性の
活躍が不可欠な時代になりました。今後とも京都府が推進される共生社会の実現の一助を担うべく、歩みを進め
てまいりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

— 海外研修 KYO のあけぼの会 2024年度総会・研修会 —

日時：2024年4月12日(金) 11:00~14:00 場所：ホテルオークラ京都「翠雲の間」

総 会

1. 開会
2. 田中 田鶴子会長 挨拶
3. 来賓紹介
4. 来賓祝辞 京都府文化生活部 副部長 西村 美紀様
5. 議長選出
6. 議事
 - 1号議案：2023年度事業及び決算報告
2023年度監査報告
 - 2号議案：2024年度事業計画及び予算
 - 3号議案：2024年度・2025年度役員選出
 - 4号議案：会則第14条の年会費改正について
7. 閉会



ご挨拶



京都府知事
西脇 隆俊 氏

「海外研修KYOのあけぼの会」の皆様におかれましては、日頃から京都府政の推進につきまして、御理解と御協力を賜っておりますことに、心よりお礼申し上げます。今年度貴会におかれましては、岐阜県・愛知県を訪問され、「SDGsと地方創生・持続可能な農業への取組」をテーマに学習されるとともに、愛知県の子育て支援団体と地域の子育て支援や少子化対策について意見交換をされました。SDGsと地方創生、子育て支援はいずれも現在の日本にとって重要な課題であり、皆様がこのような重要課題について研修を通じて学ばれ、研修の成果をKYOのあけぼのフェスティバルで発表し、多くの参加者と共有いただくことは、地域における女性活躍並びに男女共同参画を先頭に立って牽引いただいているものであり、深く敬意を表します。

京都府におきましても、「子育て環境日本一推進戦略」の中に、「ジェンダーギャップの解消なくして少子化問題の解決無し」との考えのもと、ジェンダーギャップ0（ゼロ）を重点プロジェクトの一つとして盛り込んでおります。社会の仕組みや価値観の変革に取り組み、性別に関わらず誰もがあらゆる場面で活躍ができる社会を目指してまいりますので、皆様方の御協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、地域社会活動のリーダーとしての資質向上をめざし、女性関係団体のネットワークづくりや国際交流の推進を理念として活動しておられる「海外研修KYOのあけぼの会」様のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝を心より祈念申し上げます。

研 修 会

「子育て環境日本一・京都の実現に向けて」

講師：京都府総合政策環境部子育て社会推進監 坂野 修一 様

1. 子育て環境をめぐる現状
 - ・ 理想のライフコースの変化
 - ・ 子育てに対する社会の寛容度
2. 「子育て環境日本一」の実現に向けた取組について
 - ・ 子育てにやさしい風土づくり
 - ・ 子育てにやさしいまちづくり
 - ・ 子育てにやさしい職場づくり
3. 「子育て環境日本一推進戦略」について
 - ・ 子育てが楽しい風土づくり
 - ・ 子どもと育つ地域・まちづくり
 - ・ 若者の希望が叶う環境づくり
 - ・ 全ての子どもの幸せづくり



研修のテーマと成果

岐阜県 美濃市 地方創生 SDGsの挑戦 美濃と和紙を元気にする!

- 第一日目の研修先は、美濃市です。

岐阜県の中央に位置し、清流長良川と自然豊かな山々に囲まれています。1300年の歴史を持つ美濃和紙作りが地域の産業として継承されています。人口約1万8,000人。

ここで取り組まれている地方創生SDGs達成に向けた道のりを見聞するため、その仕掛人である辻晃一さんを現地に訪ねました。



- 文化庁から伝統的建造物群保存地区に選定された「うだつの上がる町並み」と呼ばれる江戸時代からのたたずまいが迎えてくれました。「うだつ」とは、2階の家と家の間、屋根の両端を一段高くして、火災の類焼を防ぐために造られた防火壁のことです。高台に造られた城下町であったため、水に乏しく、防火壁「うだつ」

は、まちを火災から守る工夫のひとつでした。建築に費用がかかるので裕福な家でなければ「うだつ」を造ることが出来なかったため、「うだつを上げる・うだつが上がらない」の言葉もできました。美濃和紙の生産地として繁栄し、「うだつ」はその富の象徴でした。

- 美濃和紙の中の最高峰「本美濃和紙」は2014年、その手すき技術がユネスコ世界無形文化遺産に登録されました。

また、2021年の東京オリンピック・パラリンピックの表彰状に採用され話題となりました。



- 最盛期の明治時代には手すきの和紙生産にたずさわる人は3,000人とも4,000人とも言われましたが、機械化と、洋紙やプラスチック素材の流入により、現在手すきの職人は20人程になってしまったそうです。



- 機械抄きの製紙会社は現在4社、そのうちのひとつ創業70年の丸重製紙の長男として辻さんは生まれ育ちました。

東京での生活経験ののち、8年間離れていた美濃に戻って家業を継いだそうです。「美濃と和紙を元気にする」を使命に掲げ、様々な活動や事業を展開されてきました。

- そのような中、美濃市が築100年近い古民家の活用をしてくれる事業者を募集していることを知ります。

全国的な課題となっている空き家問題。老朽化した空き家は倒壊の危険性だけでなく、地域の治安悪化につながる恐れもあります。「土地と建物は貸与するから、手を入れつつ活用してほしい」と、民間に求めたのです。

- かつて美濃で、楮（こうぞ）などを扱う、和紙の原料問屋を営んでいて、繁栄を遂げた松久才治郎氏が、賓客をもてなす別邸として建築した主屋と、金庫蔵や原料蔵が美濃市に寄贈されていました。辻さんは、家業である製紙会社直営の和紙専門道を併設した古民家ホテルをつくることで、美濃の歴史的価値を未来に残すアイデアを市に提出。採択されることとなりました。



わたくしたちが研修に訪れたのはその築100年の空き家をホテルにリノベーションした古民家ホテル

「NIPPONIA 美濃商家町」です。

今から5年前の2019年にオープンしました。客間には美濃和紙を多く用いています。働く場所の創出にもなっています。

- 最も大きな蔵には「和紙専門店Washi-nary」があります。

機械製造された和紙や和紙製品のほか、手漉き職人による和紙が並べられています。美濃和紙の美しさや手触りを体感できました。

- 周囲には有名な観光地も温泉も見当たらない、過疎が進み、空き家問題が深刻化する地域において、このひとつのホテルがその町を訪れる理由になっているとのこと。

- 「美濃を持続可能なまちにする」「和紙を持続可能な産業にする」

SDGs「11.住み続けられるまちづくりを」の実践事例を見てまいりました。

辻さんは、美濃市の人々の協力も得て町の活性化に対する信頼と実績を重ねていきました。

現在も次世代につないでいこうと挑戦を続けていらっしゃいます。



- わたくしたちは実際に行って・見て・聴いて、400年を超える歴史を有する「うだつの上がる町並み」を中心に、美濃和紙文化という地域独自のストーリーを活かし、地域が豊かになるための考え方とこれからの展望を学んでまいりました。

（奥谷 かをる）

トヨタネ研究農場の視察・見学

農業の明るい未来に貢献～課題解決に向けSDGsを意識した研究農場の取組～

2日目の午前、トヨタネ株式会社の研修を行いました。場所は、愛知県豊橋市にあります。

トヨタネの事業内容は、

- ・ 種苗の生産、販売
- ・ 農業用フィルム、農業用ネットの加工及び販売
- ・ 農業生産資材及び出荷資材の販売
- ・ 施設園芸ハウスの建設工事の設計、施工並びに請負
- ・ 農園芸に関する試験研究及び新システム開発

となっております。大きな特徴は、創業当時から研究農場を運営し、多くの品種の中から地域に合った品種を提案している事です。



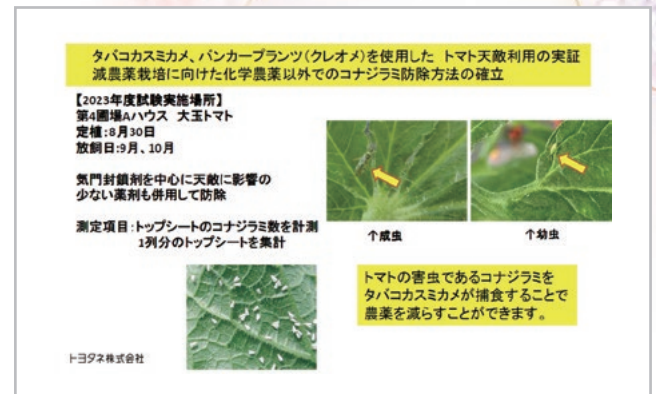
写真は、路地もののトウモロコシ研究農場です。実際に栽培される方が、ここで比較して、購入する品種を決めることができます。次にビニールハウス内の見学を致しました。



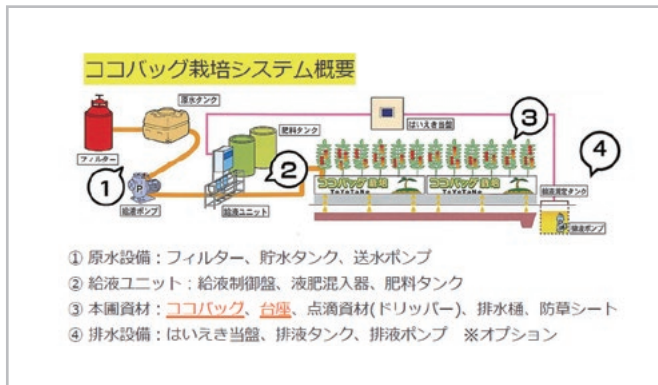
ここでは、新しい栽培技術が導入されています。コンピュータにより、ハウス内24時間自動管理を実施、換気や水やり、液肥のタイミングなどを全自動で行います。人の負担の軽減が可能となる新たな取り組みです。また、ハウス内には、たくさんの機器類があり、これらの機器で環境をコントロールすることで、様々な条件での比較栽培が可能になります。こちらでは、温度や炭酸ガス濃度まで管理しています。

共助プランツの利用とは、作物と一緒に栽培することで、病害虫などが共助プランツに集まることにより農薬の使用を減らしたりする取組です。トヨタネ農場では、トマトの共助プランツとして、クレオメを利用した実験が行われていました。

農薬の散布回数や濃度を減らすことができるそうです。これは、環境負荷の少ない栽培方法として、これから応用範囲が広がりそうです。



最後にSDGsを実現するための、緑の食料戦略についてご説明します。



- ①減農薬への取り組み
- ②バイオ スティミュラントと呼ばれる、植物が本来持っている力をしっかりと引き出す栽培方法
肥料や農薬に頼らず微生物の力などを利用して、根を刺激し、養分の吸収を高めて栽培効率をよくなる方式です。
- ③農業の廃液の影響を少なくする取組
通常の畑では、肥料や農薬などの余剰分が排水され、環境汚染となり農業の廃液も管理が必要とされてきて

います。そこで、トヨタネ農場では、廃液リサイクルシステムを導入し、培地から排出される廃液を再利用することで、環境への流出を減らすことに取り組んでおられます。

日本の農業は極めて厳しい状況に置かれています。

物価高で栽培のコストはうなぎのぼり、地球温暖化で栽培環境も悪化、農業従事者の高齢化が進み、廃業も多くなっています。

若者などが新規参入する場合にも、設備の更新が必要な状況で敷居が高くなっています。

トヨタネ農場で導入されているような、全自動に近い圃場管理システムのProfarm-Controllerを導入する際には、初期費用として、電気工事なども含めると500万円ぐらいかかるそうですが、人一人雇うことを考えると、それほど高価な投資にはならないとのことでした。

これまでのように安価なものを大量に作る農業からより栄養価の高い優れた作物を作る取り組みが行われていました。このためめぬ努力が世界でも最高品質の日本の農作物を作り上げていると感じました。

スーパーマーケットには、一年中同じ野菜が並び、旬がなくなりつつあります。

しかし、店先に並ぶ以前には、生産者の皆さんが、それぞれの時期、地域に合った苗で栽培し、出荷されているのです。

そして、ここトヨタネ株式会社さんが、比較栽培し、研究して苗を販売されています。

今回、「豊かさ実るタネを」をコンセプトにされているトヨタネ株式会社さんの視察で、野菜を私達が手に取り、口に入れるまでに、どれだけの努力があった事だろうとあらためて感謝していただかないといけないと感じました。

(川上 治美)

子育て支援の現状と課題 「認定 NPO 法人子育て支援の NPO まめっこ」との意見交換会

あけぼの会の総会で、京都府総合政策環境部 子育て社会推進監の坂野修一様に『子育て環境日本一・京都の実現に向けて』と題してご講演いただき、今の京都府の現状について、データを交え、取り組みや課題などのお話をお聞きし、準備・予習いたしました。

まめっこさんの活動紹介



まめっこさんの正式名は「認定NPO法人子育て支援のNPOまめっこ」で認定のNPO組織です。合言葉にしているのは：親も子も主人公：親も子も主人公となり、他の人との違いを認めることができ、自分の子育てに自信が持てるような場を作ってきました。

2000年にNPO法人格を取得し2021年に認定NPOとなりました。2024年4月より子供たちが気軽に来れる「いつ来ても、いつ帰ってもいい」をコンセプトに「名古屋市子ども・子育て支援センター 758キッズステーション」が単独運営されるようになりました。



京都の取り組みについて～子育てにやさしい風土づくり

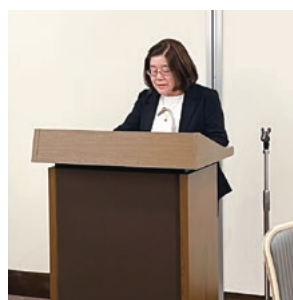
あけぼの会からは3つの京都府の取り組み事例の発表を行いました。

- ・子育てにやさしい風土づくり 奥谷かをる
- ・子育てにやさしいまちづくり 川上治美
- ・子育てにやさしい職場づくり 梅谷康子

風土づくりでは京都府独自の視点に立っての取り組み「泣いてもかましまへん!」ステッカー、また京都中央郵便局内の子育てレーン設置など。



まちづくりでは府内25地域でのハード・ソフトの両面からの支援の取り組みや市内での民生委員の廃校跡地「歴史博物館」での活動について。



職場づくりでは「子育て環境日本一」に向けた職場づくり行動宣言を作成、子育てしやすい職場は、誰もが働きやすい魅力ある企業であり、企業価値が高まることで、多様な働き方が実現し、社員定着率の向上・人材確保力の強化・生産性の向上に繋がる事例を発表しました。

質疑応答では現在のまめっこさんの運営状況やこれからの展望・抱負をお話いただき、また京都の企業の子育て事情などの質問をいただき、会員の会社の現状などが報告されました。まめっこさんの長い経験より、行政とも顔を合わす機会は心掛けて増やし、風通し良く・同じ方向を向き・仲良く・協力しあって子育て・少子化対策を考えていく事が大切。短い時間でしたが名古屋市の取り組みについても多くのことを学ぶ事ができました。



(西村 温子)

第36回 KYOのあけぼのフェスティバル 2024

あたらしいカタチ～子どもとともに輝く京都～

日時：2024年11月2日（土）

場所：京都テルサ（京都府民総合交流プラザ）

[主催] KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会・京都府・
京都府男女共同参画センターら京都・関係16団体

Program

● 式典

主催者挨拶 京都府知事 西脇 隆俊 氏

実行委員長挨拶 田中 田鶴子 氏



● 京都府あけぼの賞表彰式

「京都府あけぼの賞」は男女共同参画による豊かな地域社会の創造に向けて、女性の一層の能力発揮を図るため、各分野での功績が著しい女性に京都府知事が授与するものです。

今年度は4名の方が受賞されました。

- ・作家：井上 奈奈さん
- ・ダンサー：福島 あゆみさん
- ・アニメーション監督：山田 尚子さん
- ・立命館大学総合科学技術研究機構教授・京都大学大学院特定准教授：長谷川 知子さん



● ワークショップ・実行委員会企画10団体により開催

「海外研修KYOのあけぼの会」は京都商工会議所女性会との共催で研修発表を実施しました。

テーマ ・ 地方創生SDGsの挑戦

岐阜県美濃市

- ・トヨタネ研究農場の視察・見学
- ・認定NPO法人子育て支援のNPOまめっことの意見交換交流会



● あけぼのバザール

府内5校の高校生の実習製品等や21団体による京都府産の農水産物・加工品や工夫を凝らした手作り雑貨等の販売があり、生産者との交流で会場は賑わいました。

● パネル展示 ● スタンプラリー

入会案内

海外研修KYOのあけぼの会

私たちは、地域社会のリーダーとして、女性の自立と社会参画を促進する事業を実施しています。毎年の研修旅行では、さまざまな課題に先進的取り組みがなされている国内外の地を訪問し、実情の視察とともに率直な意見交換を交えた研修を行い、その後の活動の糧として男女共同参画による地域社会づくりを目指しています。

主な研修地

2003年	韓国：女性起業家との交流	2015年	広島・愛媛 戦後70年の原爆ドーム・近代化産業遺産別子銅山
2004年	湯布院：町おこしの先進地	2016年	ポルトガル 輝く女性を訪ねて
2005年	米国アスペン：水力発電の源を訪ねる	2017年	岡山県 真庭市 森林と共に暮らす真庭市でバイオマスツアー
2006年	世界遺産 熊野古道：歴史・自然・環境から学ぶ	2018年	パリ 活躍する女性を目指す京都とパリ
2007年	スイス・チューリッヒ 教育・福祉等で活躍する女性と交流	2019年	東京 働く女性の学び～過去・未来～武相荘にて
2008年	島根県 大田市 世界遺産・石見銀山の文化的景観を訪ねる	2020年	京都府下丹後半島・美山・和束・乙訓 未来へ続く地域に根付いた持続可能な営み
2009年	北海道 知床 世界遺産・知床の温暖化対策と流水トラストに学ぶ	2021年	東北地方 白神山地 奥入瀬渓流 三内丸山遺跡 環境と調和
2010年	イギリス湖水地方 ナショナルトラストに学ぶ	2022年	奄美大島 環境との共存・奄美の女性の活躍
2011年	山陰海岸 大地の公園・山陰海岸ジオパークの地域おこし	2023年	尾道・松山 日本の生命線 海運と造船
2012年	海洋島・小笠原諸島 自然保護活動	2024年	岐阜・愛知 SDGsと地方創生・持続可能な農業への取組
2013年	デンマーク・ロラン島 風力発電・自然再生エネルギー		
2014年	長崎県 五島列島 世界遺産登録を目指す五島列島の地域活性化と女性の活動		



2007年 スイス・チューリッヒで
教育・福祉等で活躍する女性と交流



2012年 小笠原諸島の
自然保護活動



2013年 デンマーク・ロラン島の
風力発電・自然再生エネルギー



2014年 世界遺産登録を目指す
五島列島の地域活性化と女性の活動



2015年 戦後70年
原爆語り部



2016年 ポルトガル
輝く女性を訪ねて



2018年 活躍する女性を
目指す京都とパリ



2021年 東北
～環境との調和～



2022年 世界自然遺産奄美大島
～生物多様性の島～



2023年 尾道・松山
日本の生命線 海運と造船

海外研修KYOのあけぼの会ご入会をお待ちしています

★活動にあたって

- 1.人とのつながりを大切に
- 2.実際に行動する
- 3.まわりの多くの人に伝える

年会費 5,000 円（4月～翌3月）

ご入会のお問い合わせ・申込は

<https://kyo-akebono.com/membership/>

または TEL 075-761-3401 事務局 岡野

てるびっとバックナンバーはこちらからご覧いただけます。

<https://kyo-akebono.com/official-magazine/>




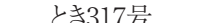










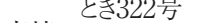
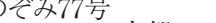

2025年度 海外研修KYOのあけぼの会自主研修旅行ご案内

◆募集人員：20名様 ◆旅行代金：137,200円（概算）＊別途保険料 500円

◆旅行日程：2025年5月21日（水）～5月23日（金） 2泊3日

◆行程（変更になることがあります） ユネスコの世界遺産 富岡製糸場と、絹産業の関連資産を訪ねます。

富岡製糸場と日本の絹産業発展の歴史に学ぶ

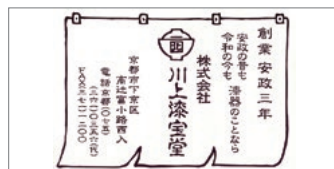
	月日(曜)	予 定
1	5月21日 (水)	<p>京都  のぞみ76号 東京  とき317号 高崎  高崎市内(昼食) </p> <p>8:13 10:24 10:41 11:32 11:45 12:15 13:30</p> <p>14:00 高山社跡 15:00 高崎白衣大観音 (途中車窓より) 16:30 伊香保温泉(泊 お宿玉樹)</p> <p>高山社跡</p> <p>日本の近代養蚕法の標準「清温育」を開発しその教育を行った場所。</p>
2	5月22日 (木)	<p>旅館  富岡製糸場・群馬県立世界遺産センター  下仁田こんにゃく観光センター </p> <p>8:00 9:00 11:15 11:45 (昼食) 12:45</p> <p>13:30 荒船風穴 14:30 16:00 伊香保温泉(泊 岸権旅館)</p> <p>富岡製糸場</p> <p>明治5年、生糸輸出に近代国家建設への活路を見出した政府が設立した器械製糸のモデル工場。民営化後も質の良い生糸を能率よく大量生産するために革新を続けました。</p> <p>群馬県立世界遺産センター「セカイト」</p> <p>世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の価値や魅力を、デジタル技術を駆使した展示で紹介する施設。昔の富岡製糸場などをCGで再現。</p> <p>荒船風穴</p> <p>岩の隙間から吹き出す冷気を利用した蚕種（蚕の卵）の貯蔵施設で、冷蔵技術を活かし、当時代1回だった養蚕を複数回可能にし、繭の増産に貢献しました。</p>
3	5月23日 (金)	<p>旅館  榛名神社  榛名山ロープウェイ  山頂  下山 </p> <p>8:30 9:00 9:45 10:00 11:00</p> <p>11:15 伊香保温泉(昼食)(散策) 13:00 14:00 高崎  とき322号 東京  のぞみ77号 京都 </p> <p>14:41 15:28 15:48 18:00</p>

編集後記：今、私たちは100年に一度といわれる大きな変革期に生きています。身の回りには、50年前には想像もできなかったことが現実になっていますし、まだまだ大きく変わっていく過程にあります。その変化の中にあって、様々な価値観や文化、技術などに対して感覚をとき澄まし、違いを見聞する中で自分自身が新しい未来に向かって変わっていくことができるようにしていきたいものです。
(梅谷康子)

2025.3 発行 / 海外研修KYOのあけぼの会

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町85番地の4(岡野組内)

TEL 075-761-3401 FAX 075-752-3034 事務局 岡野



男女共同参画に積極的にご参加の企業様に協賛をいただいております。